

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171800218		
法人名	株式会社 ファミリー中部		
事業所名	グループホームファミリー		
所在地	岐阜県土岐市泉町定林寺962-76		
自己評価作成日	令和1年8月31日	評価結果市町村受理日	令和元年11月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kairikensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2171800218-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kairikensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2171800218-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和1年9月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭的な雰囲気と施設の中で、利用者様中心の安全で楽しい生活を送れる場の提供と、職員との信頼関係を高めつつ、思いや意思を受け入れ、気兼ねなく毎日を過ごして頂くように支援する。笑顔・ゆっくり・傾聴・共感・情報公開の5大理念の実践。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>古い建物を改修した事業所であるが、生活する中で不都合な点を見つけながら、壁のクロスの張り替えやテーブル・椅子などを新しい物に替え、家庭的な生活空間を確保している。出来るだけ利用料金を抑え、成年後見制度利用者の受け入れなど、利用者の立場に立った事業運営を実践している。また、管理者は、パート職員の給与や賞与、有給休暇等の処遇改善も行い、働きやすい職場環境作りに取り組んでおり、職員のチームワークの良さも定着率に繋がっている。また、介護技術の向上に努め、利用者が安心して楽しい生活が送れるよう、日々、寄り添いながら支援に取り組んでいる。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の業務の中で意識づけして全ての職員に周知しています。また職員それぞれに冊子を配布しています。	「笑顔・ゆっくり・傾聴・共感・情報公開」の5大理念を目に付く場所に掲示している。職員間で理念の意義を共有し、利用者に寄り添いながら、一人ひとりの思いに耳を傾け、笑顔のある暮らしの支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の周辺に民家が少なく日常的な挨拶程度に留まっています。	事業所は、自治会に賛助金を納め、地域に協力できる事を伝えている。近隣の企業とも親しく関わり、運営推進会議には、区長や民生委員の参加がある。落語や手品等、地域のボランティア訪問は、利用者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで、ご家族、民生委員、行政の方々に情報の交換や意見など頂戴しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族の代表の方からの苦情、意見や提案など真摯に受け止め解決もしくはアイデアなどに取り入れています。	運営推進会議は隔月毎に開催し、身体拘束等廃止委員会を兼ねている。事業所の活動や利用者の状況、外部評価結果などを報告し、意見を交わしている。終末期ケアや熱中症対策等についても、多くの意見を検討し、運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護支援専門員や管理者が、月に2~3回程度市役所介護保険課や包括支援センターに出向き営業や情報の交換を行っています。	市の介護保険課・地域包括支援センターとは、常に相談できる関係を築いている。担当者とは、困難事例や事故などを報告し、助言を得ている。市主催の介護相談員の定期訪問、生活保護受給者や成年後見制度対象者の受け入れも行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの講習や研修に参加して職員全員に周知徹底し実践しいています。社内研修にも身体拘束の内容を盛り込んで開催しています。	身体拘束廃止委員会は、2カ月ごとに開催している。社内研修では、拘束についてのマニュアルを基に、拘束の弊害についても学んでいる。部屋での転倒予防には、センサーマットの利用がある。昼間は、玄関を開放し、付き添いながら自由な行動を見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講習などに会社より参加して、後日、講習修了者がほかの職員に理解を広めています。		

岐阜県 グループホーム ファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の講習に参加し、必要性など学び他の職員にも広めている。現在活用している利用者も数名おられます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書と合わせて十分説明し納得して頂いたうえで契約を交わすように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員の設置と苦情相談窓口を設置しています。玄関入り口には、苦情箱を設置して対応しています。	家族には、第三者苦情相談窓口について説明し、玄関には苦情箱を設置している。家族の事情もあり、訪問は少ないが、毎月、利用者の写真入り「ファミリー新聞」、医師からの受診結果及び身体状況票を家族に送付している。	介護計画についての説明や、イベント以外の外出支援が家族に明確に伝わっていない場合がある。家族とは、さらに意思疎通を図れるような工夫に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	以前はユニットミーティングを月に一度のペースで行っておりましたが最近2か月に一度くらいしか出来ていないのが現状です。時間的余裕や人の手配が困難です。	全職員が揃う会議は難しいが、随時、話し合いの場を持ち、内容は連絡ノートで職員全員に周知を図っている。親睦会を年に1~2回開催し、職員の意見や提案を聴き、運営に活かしている。管理者は、福利厚生の実現に努めており、人材確保が難しい中、職員の定着率は高い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	頑張っている職員に給与、賞与などで加算できるように評価項目シートに記入してもらい評価の高い職員にはプラス出来るようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社の意向で研修や講習の費用を全面的にサポートして積極的に参加してもらえるように職員に働きかけています。		
14	※	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の支部会や病院などの連携会の勉強会にケアマネ、管理者、職員など出席した際に交流や意見交換を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご自宅や病院などに面談に伺い、直接本人やご家族の方に希望・要望・趣味などを傾聴し入所後の支援に反映させていただきます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの入所の申し込みの時点で不安な事や要望または利用者様の生活歴などの把握に努め出来る限り希望に添えるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護支援専門員と連携し入所に関して担当者会議などで意見を聞き見極めを図っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様の尊厳を重んじて人生においての先輩として尊び、経験して培われた知識を学びえる関係を築いております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎年恒例の施設の行事で花見・花火大会・秋祭り・クリスマス会などにご家族の方々にも参加を呼び掛けております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日常生活動作の低下などにより一部の利用者様に限られているのが現状です。	昔からの友達が訪れ、部屋でゆっくりと過ごしたり、家族と一緒に、墓参りや結婚式に出席する人もある。また、職員と共にドライブを兼ねて、馴染みの喫茶店や神社参拝等に出かけている。訪問理容や介護相談員、ボランティアとの馴染みの関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションの時間などトランプの7並べやババ抜きなどみんなのできるレクや同じ趣味の方同志できるよう支援につとめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サマリーや情報提供書などを転居先の関係者に提供して関係を引き継いでおります。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り利用者の個性を尊重し個別のケアに努めています。介護計画書も希望に沿うよう計画書に盛り込んでいます。	職員は、日頃の会話や個別ケアの中で、利用者の思いを把握している。意思疎通が難しい場合には、問いかけへの反応や表情などから汲み取っている。本人が、どんな暮らし方を望んでいるのかを、家族からも聴き、本人本位の支援を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族の方より生活歴・既往歴など詳しく聞き介護さなりー、看護サマリーなど参考にしてサービスに活かしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全ての職員が毎日の介護記録やバイタルチェック表に目を通し体調の変化や介護のサービスにつながるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護支援専門員と職員の間で利用者様やご家族の要望などを話し合い、看護師や主治医の意見も聞きながら作成しております。	介護支援専門員は、職員の意見や介護記録を参考にしながら、日頃から聴いている利用者・家族の意見を反映させた介護計画を作成している。また、個々の生活習慣を活かしながら、その人らしく、楽しい暮らしが出来るようなプラン作りをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日々の気の付いた事や言動、出来事などを事細かく記録し職員間で共有しながら見直しに努めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状では、ごく一部の利用者様に限られていますが、月に一度相談員さん2名が来所して頂き話し相手や相談相手として支援しています。		

岐阜県 グループホーム ファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	別会社ではあるが、併設している有料老人ホームと連携を取りながら柔軟に対応しております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医クリニックの主治医に月2回の往診をお願いし、健康管理と薬の処方を行い認定調査に必要な意見書の記入などの支援をしております。	以前からのかかりつけ医を継続する人もあり、通院は家族受診を基本としている。緊急時や専門医へは、事業所が受診介助を行う場合もある。大部分の人が協力医に変更しており、訪問看護ステーションと連携しながら、適切な医療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様が急な異常が見られた場合は、昼夜を問わず看護師に連絡をとり指示を受け対応にあたっております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	総合病院などの場合はソーシャルワーカーや担当看護師と連携を密にとり早期退院につなげたり他の入所先の検討などに努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームとご家族様と終末期ケアの契約を交わした場合に限り終末期を住み慣れたホームで最後を送られるよう支援しています。	ホームとしては、看取りを行わない方針としており、契約時に説明し同意を得ている。状況の変化に応じて本人・家族を交え、主治医・関係者で話し合い、適切な支援を行っている。特別養護老人ホームへは、事前に申請している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の救命救急の講習会に参加し人工呼吸、AEDの使い方などの講習を受け他の職員にも周知徹底しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を実施し内1回は夜間想定で行っています。また積極的に防火管理者研修にも行けるよう努めております。	災害訓練は、セキュリティー会社と協力しながら実施している。水消火器の使用体験や避難訓練を実施し、消防署にも報告をしている。周りには民家がなく、近隣企業の協力を得ている。水や食料は、最小限確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	同性介助が勤務のシフトの関係上、困難であるため特に入浴・トイレ介助の時は、言葉にて声掛けをし異性介助に不安がないよう努めております。	職員は、「親しき仲にも礼儀あり」を心がけ、常に利用者を人生の先輩として敬いながら接している。同性介助が困難な場合もあり、入浴や排泄支援では、利用者の羞恥心に配慮し、誇りを損ねない言葉かけや対応をするよう周知徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の暮らしの会話の中で利用者様の希望・要望など伺い可能な範囲で支援するよう職員全員で努めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	現状ではまだまだ出来ておらず、食事の時間や入浴日など職員側の都合で行われているのが今後の課題である。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を最優先にして気温の変化、体温調節に関しては職員で支援している。また、必要な物は購入したりご家族に依頼することもあります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個人個人の好みやアレルギーで食べれない物などを把握し献立に活かしています。中には別メニューで提供することもあります。	職員は、食べ残しのないように、利用者の好みを取り入れた手作り食を提供している。利用者も配膳やテーブル拭きなどを手伝っている。職員は、利用者の状態に合わせて、介助と見守りをしながら、一人ひとりが満足感を得られるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月実施の体重測定や毎日の介護記録を参考にして食べる量・栄養バランスを考えています。また、水分補給には特に気を付けスポーツドリンクや果物で摂れるよう心掛けています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様に対して朝、夕食後に行っています。又義歯の方は、入歯洗浄剤で一晩浸け置き洗いをしています。		

岐阜県 グループホーム ファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録などを参考にそれぞれの利用者様の排泄パターンを把握し定期的にトイレ誘導や声かけ、介助を行っています。	排泄チェック表を基に、見守りと声かけ誘導で排泄の自立を支援している。布パンツ使用者や昼夜とも排泄の自立が来ている人も多い。重度で立ち上がりの難しい人は、おむつを使用し、安全と清潔の保持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の個人記録をチェックし水分やフルーツなどの提供や簡単な体操を働きかけています。また主治医の先生や看護師との相談、連携により予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望、タイミングに合わせるのは困難なのが現状であるが、お風呂は毎日あるので入れない時など曜日を変更して入浴することは可能である。	週3回の入浴を基本としているが、毎日、入浴準備をしているので変更も可能としている。同性介助希望者や順番など、出来る限り個々の希望を受け入れている。重度の人は、シャワー浴で代替し、安全で気持ちの良い入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間でも足の浮腫のひどい方や横になりたい方は居室で休んでいただいています。夜間なかなか寝付けない方には主治医より睡眠導入剤を処方してもらい服用してもらっています。空調にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報やお薬説明シートで職員全員に周知し、症状の変化に関しては、月2回の往診時に主治医に報告して指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全員は難しいが簡単な仕事や作業など役割を持っていただき手伝っていただいています。趣味や得意なことをレクに取り入れています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	たまにはあるが、ドライブや買い物、喫茶外出などに出かけています。また、年に数回外食レクに市内のレストランに全員でランチに出かけます	日頃は、敷地内や周辺を散歩している。職員と共に、道の駅や市の産業文化振興センターに出かけたり、個々の希望で喫茶店や買い物などを支援している。墓参りや美容院など、家族の協力で出かける人もある。年間行事では、花見や紅葉見物にも出かけている。	

岐阜県 グループホーム ファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る利用者様は個人で管理されていますが、ごく一部の方に限られます。基本施設では、現金・通帳・印鑑などは、預からないようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者本人から要望がある場合は家族の承諾を得てから対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や玄関に四季の草花など飾って季節感を取り入れている。共用スペースなどには消臭剤や芳香剤を使用している。	玄関や居間に野の花を飾り、壁には季節毎の共同作品や塗り絵などを掲示している。利用者は窓越しに景色を眺め、季節を感じながら、おしゃべりを楽しんだり、静かに新聞を読むなど、好きな場所で寛いでいる。共用スペースの消臭対策やトイレの防臭など、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブルの席など気の合う者同士が座れるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力を得て小さな家具や使い慣れた私物などは活かしている。お部屋のレイアウトなども利用者様の好みに合わせて対応している。	居室には、ベッド、椅子、衣装ケースを設置している。馴染みの家具やテレビなどを自由に持ち込み、使いやすく配置している。趣味の作品や思い出の写真、花などを飾って、その人らしく、落ち着いて過ごせる工夫がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置等、転倒防止に努めながら本人の日常生活動作に合った空間づくりをめざしています。		